

釧路市動物園基本計画

「いのちとふれあい、いのちをつむぐ」

—何度でも来たくなる動物園—

平成23年3月

釧路市動物園

目次

はじめに

1. 基本計画の位置づけ	1
1. 1. 基本計画の目的と位置づけ	
1. 2. 基本計画の検討の流れ	
2. 釧路市動物園の現況	3
2. 1. 釧路市動物園の概要	
2. 2. 釧路市動物園の広域状況	
2. 3. 釧路市動物園内の現況	
2. 4. 釧路市動物園の特性と課題	
3. 世の中の動向	12
3. 1. 世の中の動向	
3. 2. 動物園の動向	
4. 釧路市動物園の価値	14
5. 基本方針	15
5. 1. 基本理念	
5. 2. 目標と方針	
6. 施設整備計画	21
6. 1. ゾーニング計画	
6. 2. 施設整備方針	
7. 活性化に向けたソフト事業と経営戦略	34
7. 1. 活性化に向けたソフト事業	
7. 2. 活性化に向けた経営戦略	
8. ブランディング戦略	40
8. 1. 名称変更とキャッチコピーの検討	
8. 2. 情報発信戦略	
8. 3. 北海道動物園構想（案）	
9. 事業計画	43
10. 動物園付属施設(タンチョウ関連施設)の整備計画	44

はじめに

1975年10月開設した釧路市動物園は、釧路湿原国立公園並びに阿寒国立公園に隣接した自然環境豊かな動物園として本年度35年を迎えました。

この間、国内最東端の動物園として、特別天然記念物のタンチョウや国内唯一展示しているシマフクロウなど、釧路ならではの動物たちの展示や野生動物の保護増殖事業にも力を発揮しています。

また、2008年5月に開始した四肢に障がいを持ちながらも懸命に生きる、アムールトラの「タイガとココア」の人工保育の取り組みは、多くの方に「命の大切さ」を発信することとなり、さらに希少動物の生息環境の悪化を伝えていくことで、環境を考える教育の場として動物園が位置付けられるようになりました。

他方、来園者からは、老朽化した動物園の再整備や、動物たちの自然の行動特性を生かした展示の工夫などが求められています。

このような中、市民各層からのご意見や提言のもと、釧路市動物園の将来像を探り、また魅力ある動物園づくりを目指すため、『いのちとふれあい いのちをつむぐ』を基本理念とした「釧路市動物園基本構想」として策定し、今後のあり方と方向付けをお示ししました。

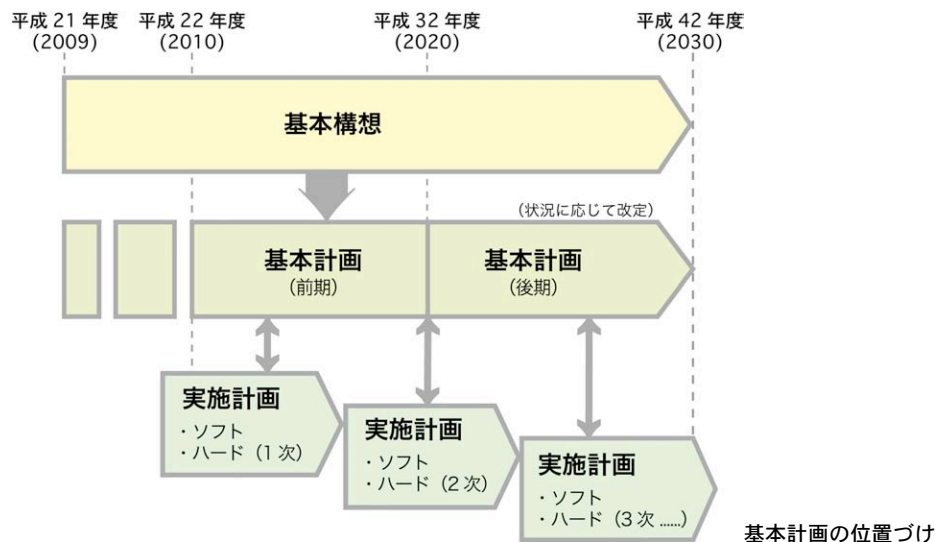
ここに策定しました「釧路市動物園基本計画」は、向こう20年間にわたる実施計画に結びつけるため、釧路市動物園基本構想をベースとして、さらに関係各位からのご意見をいただきながら、3つの目標、9つの基本方針を掲げ、「釧路らしい、何度でも来たくなる動物園」を目指していくものです。

また、「釧路市動物園基本計画」は、動物園内に設置の「タンチョウ保護増殖センター」はじめ、「丹頂鶴自然公園」並びに「阿寒国際ツルセンター」につきましても、動物園の付属施設として位置付け、動物園同様ハード・ソフトの両面にわたる可能性を具体化し再構築するため、ここにまとめるものです。

1. 基本計画の位置づけ

1.1. 基本計画の目的と位置づけ

本基本計画は、平成21年に作成された「釧路市動物園基本構想」を踏まえ、現状の課題を解決し、特性をいかした施設整備、取り組みを行っていく、より具体的な総合マスタープランとして位置づけられます。おおむね20年間の施設整備計画、その間の取り組みを示す長期計画となっています。従って、今後概ね20年の諸情勢変化を見ながら、実施した整備の評価のフィードバックなど必要に応じてある程度柔軟に対応していく長期計画となっています。



1.2. 基本計画の検討の流れ

本基本計画は、基本構想を元に、「市民委員会」「職員内部検討」を通しておこなわれています。まず、釧路市動物園の現状、広域的状況の把握を通し、「釧路市動物園の特性と課題」の整理を行い、他動物園や世の中の動向を踏まえ、釧路市動物園が独自に持つ価値の発見を行います。その独自の価値を生かす、理念、目標、基本方針の策定を上位計画との整合性をはかりながら検討していきます。その後、目標を達成する基本方針に従い、「施設整備計画」、「活性化に向けたソフト事業と経営戦略」「ブランディング戦略」の検討を行い、それらを実行する事業計画の検討を行っていきます。

※ブランディングとは、一般的に企業が顧客にとって価値のあるブランドを創り上げるための活動のことです

基本計画検討の流れ

